

## 一愚庵に学ぶ

## 東海遊侠伝」を執筆し 次郎長の養子になった愚庵の魂

## 次郎長翁を知る会 会長 山田使司

戊辰戦争に出陣し、父母妹とは生き別れ とき愚庵は二十五歳。十五歳で元服して しっかり者で次郎長を支えていた。この た。三代目のおちょうは西尾藩士の娘で を洗って大きく変身した時代に入ってい れて始めて次郎長に出会い清水にやっ 長は五十九歳、長い渡世人の生活から足 てきたのが明治十一年であった。次郎 天田愚庵が駿府で山岡鉄舟に紹介さ

天田忌庵

いた時代であった。 になり全国を放浪しながら捜しつづけて

あった。 ぜられ、明治天皇の側近に奉仕する身で 恩人となった。鉄舟はこのとき侍従に任 紹介されそれ以来、愚庵の生涯で最大の 鉄舟とは明治五年東京で小池詳敬から

うまでもなく、東山北陸諸道へかけてか ことで、貴賎の別なく多くの人の出入り の家にきてまず驚いたのは大任侠だった や仙右衛門は健在だった。愚庵が次郎長 の有力な子分の石松や小政は亡く大政 水の自宅に寄留させた。すでに次郎長 つて、名のある者たちと親しく交際し、 のおびただしいことだった。東海道は云 次郎長は鉄舟から頼まれて愚庵を清

> かった。 話した。愚庵の頼みに次郎長はそれぞれ いづれも固く結びあい、何事にもたがい に協力した。愚庵はその恩を終生忘れな の人を遭わし、または手紙を出して探索 も頭から離れない父母妹のことを詳しく 愚庵はその次郎長の人柄から、かたとき に救援しあう間柄だったことを知った。

侠伝」を執筆した。次郎長本人や大政、 うして「東海遊侠伝」は書き終えた。明 思えてならない。愚庵は次郎長の一大変 味本位や好奇心だけではなかったように 庵にとって、次郎長との生活環境は珍し ぎて行った。しかし結果は思わしくな 待った。ただ月日のみがいたずらに過 さで執筆したことがわかる。しかも、 身した本性を感じとり、風貌や態度そし か。武士の子として生まれ育てられた愚 それを書きしるしていった。愚庵を執筆 かった。世話になっている間、 れぞれの事件や出来事の年月は正確であ 春には脱稿しているから、 ものすごい速 治十一年に次郎長宅にきて、明治十二年 て言行などに引きつかれたのだろう。こ く驚きばかりであった。とは云っても興 に駆り立たせた心境はどこにあったの 仙右衛門などの子分衆らからも聞きとり 愚庵は次郎長宅でその探索の便りを 「東海遊

> り、その能力たるや天才的な文才があっ たとしか思えない。

だった。 の次郎長の人間性を知り、決断したの 庵はその後旅まわりの写真師になって捜 も戦争は人間を犠牲にし不幸にする。 しつづけた。次郎長は愚庵の孝行心にう の生き別れはなかったはずだ。穏やかな て入籍した。愚庵は、このときすでに真 たれたのだろう。明治十四年に養子とし 家団欒はつづいていたはずだ。昔も今 戊辰戦争さえなかったならば父母妹と

## 信 報



載させていただきます。 故人のご冥福をお祈りいたします。 歳。ここに哀悼の意を表すとともに 日、永眠されました。享年八十五 の竹内宏氏が平成二十八年四月三十 の想いは、次号に追悼特集として掲 当会設立の発起人であり最高顧問 なお竹内氏への語り尽くせぬ深謝

## ――明台別切り青水とは茶り輸出――次郎長の生きた時代の清水湊

## ―明治初期の清水とお茶の輸出―

年(一八九三)に没した。

次郎長は、徳川幕府の幕藩制社会がゆたがであったかをみていきたい。今日の話は、次郎る時代を生きていた。今日の話は、次郎る時代を生きていた。今日の話は、次郎のようであったかをみていきたい。

## ・ 江戸時代の清水湊―

江戸時代の清水湊を語る上で欠かすことができないのが、駿府城下町の存在である。江戸時代、清水湊と駿府城下町がある。江戸時代、清水湊と駿府城下町が水湊計り二而、外二湊無御座候=駿府城水湊計り二而、外二湊無御座候=駿府城下の湊は清水湊だけで他にない」と言った。駿府と清水湊は約一三キロ離れている。現在、車や電車でも三〇分近くかかる。現在、車や電車でも三〇分近くかかる。現在、車や電車でも三〇分近くかかる。現在、車や電車でも三〇分近くかかる。現在、車や電車でも三〇分近くかする

ているわけである。
ているわけである。
に対しているわけであると言っているわけであると言っているわけであると言っているわけであると言っているわけである。

本稿は平成二十七年六月十二日の当会総会での記念講演の概要をベースに、講師の岡村氏が特別に書きおろされたものである。

駿府城下町整備と清水湊の外港化は密 修築、駿府城下町整備と清水湊の外港化は密 修築、駿府城下町整備に必要な材木・石 修築、駿府城下町整備に必要な材木・石 を担ったのが巴川である。清水湊は駿府城の大 られた荷物は、巴川を通って上土へ、そ られた荷物は、巴川を通って上土へ、そ られた荷物は、巴川を通って上土へ、そ られた荷物は、田川を通って上土へ、そ の後は陸路駿府へ運ばれた。江戸時代か の後は陸路駿府へ運ばれた。江戸時代か ら静岡の主要な産物であった茶は、本山 斉産地の山間部の村々から駿府に集めら れ、清水湊へ送られた。

## 2. 静岡藩成立と商法会所

岡村

龍男

大名はいなかった。 大名はいなかった。

後、静岡藩に仕えた。渋沢によって、設とになり、ヨーロッパ外遊を経験したが、一橋慶喜のちの徳川慶喜に仕えるたが、一橋慶喜のちの徳川慶喜に仕えるたが、一橋慶喜のちの徳川慶喜に仕えるたが、一橋慶喜のちの徳川慶喜に仕えるととになり、ヨーロッパ外遊を経験したが、一橋慶喜のちの徳川慶喜に仕えるととになり、ヨーロッパ外遊を経験した

立されたのが「商法会所」のちに常平倉と呼ばれるもので、地元の商人たちを編成し、共同出資させ、国産品の生産・流成し、共同出資させ、国産品の生産・流通、特に横浜への売り込みを図った。清通、特に横浜への売り込みを図った。清され、流通に重要な役割を担ったが、静され、流通に重要な役割を担ったが、静され、流通に重要な役割を担ったが、静さまな政策は十分評価できるだけの時間がなかった。しかし、常平倉で培った経験、特に共同出資による運用というのは、駿府や清水の商人達にとってその後の発展の礎となった。

## 3. 清水湊の課題

した港を作ることであった。江戸時代以来の清水湊は狭くて浅かった。これでは 来の清水湊は狭くて浅かった。これでは 近代化によってますます大きくなる船、 すなわち西洋式の蒸気船は直接清水湊に

をして、もう一つの課題は、清水湊の 問玉である移出品、茶を横浜へ運ぶ輸送 目玉である移出品、茶を横浜へ運ぶ輸送 における清水の課題であった。 の二つが がしい清水港、すなわち現在の場所に が上場を作る上で大きな障害があった。

幕臣の白井音次郎という人物の土地であった。彼は、明治七年に「家禄」と呼ばれる、士族が支給される給料を返上する代わりに、現在の清水港周辺の土地を下げ渡された。白井音次郎が静岡県に下げ渡しを申請したときに付けた絵図によると、現在の清水港周辺がほとんど白井の土地であったことが分かる。

明治十一年、これらの課題を一気に解決へ導く会社が設立された。廻船問屋から募った資本金七千円をもとに、波止場勢が続を建設する波止場会社と、回漕業繋船場を建設する波止場会社と、回漕業なで行う博運会社が設立された。 廻船問屋かる会社となった。

水の二つの課題が解決したのである。 博運会社の株券を渡した。こうして、清供を受けた。その見返りとして、白井へ供を受けた。その見返りとして、白井へ供を受けた。その見返りとして、白井へ

## 4. 静岡と清水のせめぎ合い

明治初年の清水をめぐっては、静岡の明治初年の清水をめぐっては、静岡と清水のせめぎ合いがあった。代表静岡と清水のせめぎ合いがあった。代表を比較してみよう。

両者の江戸時代における生業は、尾崎

などに集まった茶荷物を直接横浜へ売り

まず、静岡は、東海道線で安西・茶町

は駿府茶問屋、鈴木与平は清水の廻船問は駿府茶問屋、鈴木与平は清水の廻船問は、尾崎は渋沢栄一の進めた常平倉、茶は、尾崎は渋沢栄一の進めた常平倉、茶は、尾崎は渋沢栄一の進めた常平倉、茶は、尾崎は渋沢栄一の進めた常平倉、茶を出を行う静隆社と共静社、その後もさまざまな事業を進めた。鈴木与平は、郵便汽船や三菱汽船との清水航路開拓に関する交渉、国産茶店による茶移出の推進、博運会社・波止場会社などで清水の港湾整備を行い、その後は、静隆社や共静社の一員として茶移出を行った。このように、事業によっては、協力しながらも、それぞれ静岡と清水に利益が出るように動いたのである。

## 静岡・清水がめざしたもの5.東海道線開通と

東海道線は明治二三年に開通したが、 東海道線開通を見こした投機的な清水港 の埋め立てが行われた。埋め立ての目的 の埋め立てが行われた。埋め立ての目的 は、東海道線の輸送力に目を付けた農地 は、東海道線の輸送力に目を付けた農地 拡大が多かったが、せっかく広い場所に 作った清水港の周辺が狭くなってしまう ことになり、当然清水の廻船業者たちは ことになり、当然清水の廻船業者たちは と清水が目指したものを見ていこう。

目的であった。
に負けない輸送力を確保するというのが込むということを進めた。これは、清水

一方清水が目指したことは、清水の後 背地である庵原を一大茶産地とすること であった。鈴木与平の兄である澤野精一 は、後にみかんの栽培も進め、静岡と言 えば「お茶とみかん」という流れの基礎 を作った。澤野は、庵原の山地を買い込 み、茶園を整備した。そして、たくさん の小作人を使って茶の生産を進めた。そ れによって、清水の後背地庵原を静岡に 負けない生産地とし、静岡の茶荷物に頼 らなくても済むようにしようとした。こ のように、この時期の静岡と清水が目指 したものは、お互いに足りないものを自 前で調達できるようにするということで あった。

この静岡と清水の思惑は、東海道線開通後、輸送力を手に入れた静岡に軍配が 上がったかのように見えたが、そうでは なった。東海道線が開通しても、結局は 茶の海外への輸出は横浜でなければなら 茶の海外への輸出は横浜でなければなら が、どうしても外国商館に売り込む主導 が、それでも横浜で取引をするには時間 が、それでも横浜で下で行き着いた答え

上での横浜港依存からの脱却というべきあった。それはすなわち、茶移出を行うあった。それはすなわち、茶移出を行うが、清水港を海外貿易港に昇格させ、静

ものだった。

このように、明治初年から十年代は、このように、明治初年から十年代は、を呈していた。静岡の勝利を決定づけるを呈していた。静岡の勝利を決定づけるの協力体制を強める助けになったのであの協力体制を強める助けになったのである。すなわち、静岡と清水が協力して横る。すなわち、静岡と清水が協力して横る。すなわち、静岡と清水が協力して横る。すなわち、静岡と清水が協力して横る。すなわち、静岡の勝利を決定がある。

次郎長の生きた時代、静岡と清水は江戸時代においては、駿府町奉行所や代官所の支配を受けほぼ同一の地域社会を形成していたが、明治時代以降の地方行政成していたが、明治時代以降の地方行政が、茶輸出という両者共通の重要課題をが、茶輸出という両者共通の重要課題をが、茶輸出という両者共通の重要課題をが、茶輸出という両者共通の重要課題をかい、



講演する岡村氏

## 秋の探訪ツアー報告

# 伊豆の侠客・大場の久八の故郷を訪ねて』界遺産・韮山反射炉と

平成二七年度秋の史跡探訪は三島・伊平成二七年度秋の史跡探訪は三島・伊京面へと赴いた。意外と知られていな人六に関連して、その兄弟分で伊豆の大久六に関連して、その兄弟分で伊豆の大久六に関連して、その兄弟分で伊豆の大久二世界遺産登録で沸く韮山の反射炉とスコ世界遺産登録で沸く韮山の反射炉とスコ世界遺産登録で沸く韮山の反射炉となった。

スケジュールの都合もあり、三島大社への参拝見学は旅の最後に立ち寄ることにして、行きのバスにて車内学習を進めた。「次郎長の三島行き」に関しては会なっ。「次郎長の三島行き」に関しては会知を省くが、先ず三島大社神官の矢田部翻を省くが、先ず三島大社神官の矢田部盛治の日記に残された次郎長の暗躍を紐解き「咸臨丸事件と次郎長の関与が、明治二年の二代目おちょうの殺害事件へとつながっていった」ということを山田会長ががっていった」ということを山田会長ががっていった」ということを山田会長が端的に解説された。

と次郎長」をテーマに東海遊侠伝に記載学習の第二部は筆者が、「大場の久八

されている、保下田の久六の仇をめぐる大場の久八と次郎長の対峙の場面を紹介し、久八と江川太郎左衛門英龍。博徒とそれを取り締まる韮山代官という関係の中で、韮山の反射炉の設計建築をした江川太郎左衛門の命で久八が品川台場の建設た郎左衛門の命で久八が品川台場の建設に関わったことなどを紹介したところで、講師案内の橋本敬之先生へとバトンで、講師案内の橋本敬之先生へとバトン

反射炉を前に解説する橋本氏(中央)

別がを削に解説する橋本氏(中央)

中田 元比古 橋本先生は、江川文庫主管として太郎 た衛門英龍を研究する第一人者で、反射 炉の世界遺産登録以降引っ張り蛸の多忙 の中、我々を反射炉そして江川邸へと案 の中、我々を反射炉そして江川邸へと案

午後の陽がやや傾きかけた頃、大場の人への菩提寺である間宮山広渡寺を訪問人の人物像について林様に法話をまじえた。その後本堂にて地元に伝わる侠客久た。その後本堂にて地元に伝わる侠客久た。その後本堂にて地元に伝わる侠客久た。その後本堂にて地元に伝わる侠客人

を渡した。

久八は文化十一年(一八一四)伊豆国 田方郡函南村間宮に生まれた。上州大前 田学五郎とも兄弟分で、その勢力圏は験 田学五郎とも兄弟分で、その勢力圏は験 田学五郎とも兄弟分で、その勢力圏は験 田学五郎とも兄弟分で、その勢力圏は験 で、弱きを助ける」侠客精神に徹し、決 き、弱きを助ける」侠客精神に徹し、決 き、弱きを助ける」侠客精神に徹し、決 き、弱きを助ける」侠客精神に徹し、決 き、弱きを助ける」(答精神に徹し、決 が大侠客と認められたきっかけ は、嘉永六年(一八五三) 江川太郎左衛 門が品川沖への台場(洋式砲台) 築造す 西工事監督に久八が推挙され、千の人足



をたばねて難工事を完成させたことにある。久八は間宮町の出身であったが「台場の親分」が何時しか隣の大場村とくっついて「大場の久八」となったという。明治になると久八は遊侠社会からきっぱりと足を洗い百姓として余生をすごす。また私財を投じて下田街道の改修や村の学校建設などにも尽力し明治二五年、学校建設などにも尽力し明治二五年、

でした」
「久八は大変慈悲深いお方で、晩年は

評価をそう語られた。

大場の久八肖像画

場の建設工事という幕府の威信をかけた 出会えた。大場の久八にとっては韮山代 える人物と遭遇している。次郎長は維新 が、お互い大転機となる事件と運命を変 脱いでは侠客としての作法を磨いていた は共通する部分が多い。年は三、四つ久 治める博徒の親分に只ならぬものを感じ 龍は久八を取り締まり追放はしたが、台 での伏谷如水と咸臨丸事件と山岡鉄舟と いころは、博奕で各地を転戦し、草鞋を 接点は無いにしろ、それぞれの生き様に ていたのかも知れない。久八は工事を見 大事業を久八に任せた。英龍は、駿州・ はほぼ同じ。無宿となって飛び出した若 豆州・相州・武州と、自分と同じ管轄を 官江川太郎左衛門英龍と品川台場だ。英 八の方が上だが、博徒としてのデビュー

清水の次郎長と大場の久八は、直接の

二人の大きな違いは、自らの生き様を「語って有名になった」次郎長と、「語らず埋もれた」久八である。もっとも次郎長に関しては後年に民衆が娯楽の中で郎長に関しては後年に民衆が娯楽の中でおきくしたもので、逆に久八はそうしたものを嫌い語ることを封じたに違いない。

大場の久八という人物を知り、幕末維大場の久八という人物を知り、幕末維新の激動の中でその生き残る道を模索しながらも国や民衆の為に暗躍した一廉のながらも国や民衆の為に暗躍した一廉のながらも国や民衆の為に暗躍した一廉のながらせながら明治日本の産業革命遺産を巡らせながら明治日本の産業革命遺産となった建造物をあとにした。

古色の富士山が優しく見守る下、帰路のバス内は会員の山田昭一氏のハーモニのバス内は会員の山田昭一氏のハーモニカの音色にあわせて童謡の大合唱となった場が表

事成功させ、固辞はしたが御用役の任命という光栄まで受けた。世の為人の為の社会事業家としての良面が芽生えた瞬間だった。私欲や権力に執着せず弱者の身に立つ任侠の本質を貫き、維新後は博徒からきっさりと足を洗って、農耕をしながら地元に尽くした。多くの博徒が抗争がら地元に尽くした。多くの博徒が抗争や罪人として命を落とした中、久八も次郎長も共に同じ年代に穏やかに往生を遂郎長も共に同じ年代に穏やかに往生を遂げている。



## 杉山公一 のオピニオン て大きな役割 さんを偲んで 清水経済界



を担ってこられた杉山公一様が平成 市内の病院でご逝去されました(享年 八十三才)。ここに謹んで哀悼の意を 一十七年十月十二日、 、肺炎のため静岡

をいただいたものでした。 が、その力強いお言葉に出席者は元気 だきました。 の最高顧問として大変なご尽力をいた ていただき、お言葉をたまわりました 平成十四年から八年間にわたり当会 総会には必ずお顔を見せ

清水法人会や清水銀行協会などの会長 済の底上げにお力を注がれました。 十二年間にわたり会頭として当地域経 して地域の振興に取り組まれる傍ら、 商工会議所会頭時代には、地域経済 八生の大部分を銀行という業務を通 特に清水商工会議所では

成果を残されました。 産業の発掘や育成に傾注され、 るなど高い行動力を発揮され、 も早い建設の実現を目指して計画道路 いる中部横断自動車道の建設促進組織 沿線の商工会や会議所を個別訪問され 「経済懇談会」の会長時代には、 また、現在着々と工事が進められて 日

げられました。 年四月には念願であった合併を成し遂 の課題・問題を克服され、平成二十二 清水商工会議所最後の会頭として幾多 進の原動力となりました。 方 先の会議所の合併では最後の

小綬章」を受賞なさいました。 お人柄は誰にも愛され、平成二十年に はそれまでのご功績が讃えられ 三十二年三月に早稲田大学を卒業。 してご活躍いただきましたが、 -四月に清水銀行へ入行され以来五十 余にわたり銀行をホームグランドと ワインを片手に、こよなくモーツァ 思い起こせば、杉山公一様は昭和 温厚な 同

## 平成28年度次郎長翁を知る会スケジュール

## |次郎長124回忌供養 併 お蝶100回忌供養

日時:平成28年6月12日(日)

10 時~

場所:梅蔭禅寺

に陰りが見え始めた中にあって発足し

「清水新産業開発振興機構」

の初代

当地域の未来を託す新

冥福をお祈り申し上げます。

トを愛された杉山公一様、

## ●平成28年度 第24回通常総会

日時:平成28年6月12日(日)

13時30分~

場所:清水テルサ

### 次郎長翁を知る会 会報「次郎長」34号 平成28年6月11日発行

次郎長翁を知る会

会長 山田倢司

連絡先 ₹ 424-0806

静岡市清水区辻 1-1-3-103

(公財)静岡観光コンベンション協会 清水事務所内

Tel 054-388-9181 Fax 054-388-9182

www.jirocho.com info@jirocho.com

### ●次郎長巷談 連続講座 全4回

~清水次郎長と天田愚庵の物語シリーズ~

日時: 6月25日(土)

7月23日(土)

13時30分~15時まで 9月24日(土)

10月22日(土)

場所:清水港船宿記念館「末廣」

## 壮士の墓 供養祭

日時:9月18日

## ●次郎長ウォーキング

日時:11月23日(水・祝)

### ●秋の探訪ツアー

テーマ

「若き次郎長が遊興した 東海道岡崎・御油宿」方面を予定

